

第13回 山梨県地域年金事業運営調整会議 議事要旨

1. 開催日時：令和7年7月18日（金）14：00～15：30

2. 場 所：ベルクラシック甲府

3. 出席委員：

【議長】今井 久 （山梨学院大学 名誉教授）
飯高 良造 （一般財団法人 山梨社会保険協会 常務理事）
數野 浩司 （山梨県教育庁高校教育指導官）
越石 寛 （甲府商工会議所 常務理事）
馬場 広登 （厚生労働省関東信越厚生局 年金調整課長）
浅川 文明 （全国健康保険協会山梨支部 支部長）
八巻 俊道 （山梨県社会保険労務士会 会長）
菅野 恵文 （全国国民年金基金首都圏支部 支部長）
関野 文成 （山梨県社会保険委員会連合会 会長）

（敬称略）

4. 議題

- （1）令和6年度 山梨県地域年金展開事業の事業実施結果報告
- （2）令和7年度 山梨県地域年金展開事業の事業計画（案）
- （3）意見交換

5. 意見概要（○：委員意見等、●：機構からの説明）

（1）令和6年度 山梨県地域年金展開事業の事業実施結果報告

○厚生年金については個人負担が半分、事業主負担が半分あるということを周知していただきたいと思います。適用拡大においては賃金要件だけではなく、事業所の規模（従業員数）に応じた加入となってきます。また個人事業主も対象になってくるとますます事業所の負担が大きくなるので、是非丁寧にPRをお願いしたい。

●適用拡大については事業主様にもご理解いただくよう制度説明会を実施して対応していきたいです。

○年金セミナー開催の目的は、制度の周知と理解をどれだけ得られるかと言う事だと思います。効果を図るのは難しいと思いますが、感触としてはどうでしょうか？

●年金セミナーを実施した後、アンケートを行っており年金に対するイメージについて聞いていますが、セミナー実施前は「まあ良い」以上の評価が39.7%だったのに対しセミナー実施後は85.1%に向上しました。よっておおかた年金に対する理解は得られているのかなと思われます。また、年金は老齢年金というイメージが大きいですが障害年金という年金もあるということを説明しており、障害年金があるということでしたらしっかり保険料を払っていかなくてはならないという意見もあります。その点からも理解は得られていると思われます。

○高校の現場で年金セミナーを実施したことがありますが生徒には概ね好評です。知らない事を知る機会が得られるということと、教員以外の方が学校に来て話をするという事がとても効果的で、社会福祉の授業もあります。その授業とは顔つきが違うな、という印象があります。例えば更に子供たちが印象に残るような知識を習得する方法として、総合の授業に探究という時間が各学校に必ずあります。探究をするのに年金を取り上げるよう各学校の先生方にPRしていただき、1学年を通じ探究テーマを年金とし、そこに仲間同士チームを作って自分たちで調べて学び、発信する方法を取ることで良い方向に行くのではないかと思います。

●今までの年金セミナーは受動的な感じで行われていましたので、探究の授業を通じて生徒が自発的に年金に興味を持ち、生徒同士で普及する方法はとても良いのではないかと思います。今後、導入について検討してまいります。

○自分たちが勉強した内容を全校生徒に発表する、学生が学生に自分達で研究したことを発表してPRする、というのが結構浸透率があると思います。グループディスカッションというテーマを決めてそれについて議論するという形ですが、探究というのはいくつかのテーマを提示してその中から生徒が選んで1年間探究していくというものです。年金というより社会保障という枠で調べていくといいのかなと思います。

(2) 令和7年度 山梨県地域年金展開事業の事業計画(案)

○近隣の幼稚園児のご家族に向けた制度説明会を実施するという事業ですが非常にいい事業だなと思いました。全国に先駆けてということですが、竜王、大月でも実施する計画はありますか。

●竜王、大月もアプローチを進めているのですが、なかなか開催に至っており

ません。方針としては各県で1拠点ずつの開催となっております、南関東地域第一部では山梨は甲府、東京は中野の年金事務所での開催予定となっております。今後他の拠点でも開催できるようにしていきたいと考えています。

○幼稚園児に大きくなったら何になりたいか、というテーマで絵を描かせていますが具体的にはどのような絵を描いたのですか。

●どんな職業に就きたいかという事で描いていただきましたが、お花屋さんとかサッカー選手、野球選手、パティシエなどがありました。

○とてもいい事業だと思います。園児が表彰状をもらって、その家族が年金の話聞いて、世代の支えあいという観点からとても良い事業だと思いますので出来る限り広まると良いのではないかと思います。

●年金の日の取り組みですがこの事業をきっかけにご家族が自身の年金記録に関心を示していただければと思います。

○教育機関における年金セミナーの実施について質問ですが、新たに小・中学校を対象に加えますありますが、小中学校まで下げる必要があるのかな、という感じがあります。そこまで下げる必要がありますか。先ほどの幼稚園児の場合はそのご家族を対象にするのはわかりますが、小学生に分かりますか？そこまで下げる必要がありますか？

●今までは単発のセミナーばかりになってしまうので、年齢層を下げて事業計画には小中学校と記載しましたが、その保護者にも参加いただくことによって、さらに家族的に年金に関心を持っていただくことが必要ではないか、繰り返し周知していく場面が必要ではないか、ということで今回開催することとしました。8月6日に中学2年生を対象に甲府市の教育委員会を通じて職場体験を実施する予定です。午前中は職場体験、午後は未来を考える年金セミナーと題しまして年金事務所だけでなく協会けんぽ、労働局にも講師を派遣していただき社会保障制度全体に興味を持っていただきたいと考えております。

○小さい子供たちが年金の説明を聞いても絶対理解出来ないと思いますが、説明の仕方が重要になってくると思います。わかりやすい言葉で説明することが大事だと思います。

●子供にもわかりやすい資料にしたいと考えています。

○国民年金基金の加入についてですが、基金加入の4割が50歳以上です。こ

れは、年金定期便が 50 歳以上から年金額が記載されてきます。それを見て初めてご自身の年金額を知ることになると思われます。今は老後の資金を増やす時代なので増やす事を考えている人が多いが一方で過去の学生時代の未加入、未納期間の事や付加年金、任意加入の事などを 50 歳になって定期便の年金額を見て初めて知ることになる者が多いように感じます。ということは、早いうちに制度のしくみをわかりやすい形で周知することが必要だと思います。年金教育というのは、若い世代、働く世代、もうすぐ年金をもらう世代といろんな世代にどんなアプローチをするのかという事が大事になってきます。いゝろんな世代にいゝろんな形でトライする事で、今すぐ結果は出なくても 50 代、60 代になった時に慌てないように結び付けていくことが大事になってくると思ひます。

- アプローチの仕方はそれぞれの年代に合わせたセミナーを考えております。小学生、中学生でも年代が違ひますので、その年代に合わせたセミナーを開催したいと考えています。またその世代のセミナーを開催したとしても家に帰ったらお父さん、お母さんに年金の話をしてみてください、というように形で年金というものを家族にも周知する手段として実施していこうと考えております。年金制度、まだまだ知らない人が多いように感じています。大人であつてもわかりやすい言葉を使用しゝてご案内できるように徹底しているところですよ。年金セミナーもそれぞれの世代にあつた形で説明できるようにしていきたいと思ひています。

○厚生局の取り組みを紹介させていただきます。東京都の学生特例についてですが、毎年 7 月中旬ごろに都内の学校法人の指定を受けていない大学に協力依頼の勧奨文書を送付しています。文書は機構本部にも情報提供しております。勧奨文書の中に機構で作成しているチラシも同封しました。その際機構本部からお聞きしましたが今年度においては国民年金の適用促進ということで未加入の外国人の職権適用を確実に実施するという取り組みの話を聞きました。また、外国人の特に 20 歳から 24 歳までの未納者が多いという統計結果も出されているとのことですよ。未納が多い外国人対策として学校側から学生に直接アプローチすることが有効だと思います。そのためには指定校拡大が重要と考えております。各年金事務所でも学校法人の要請をされると思ひますが国側としてもアプローチしている事を説明していただければと思ひます。

- 学校法人について、県内は 5 校のみとなつており引き続き勧奨してまいります。甲府年金事務所では、山梨学院大学の国際交流センターやリベラルアーツにおいて、外国人留学生を対象とした学生納付特例の相談会（勧奨）を

実施しています。引き続き、免除、学特の手続きを強化してまいりたいと考えています。

- 本日はお忙しい中貴重なご意見をありがとうございます。
皆様からいただいたご意見につきましては、今後の事業運営に反映させ、より質の高いサービスの向上に努めてまいります。
今後とも、当機構の事業運営にご理解とご協力をお願いいたします。